

いふに十年半生職小の間よむ影身もまゝ一命と
上奉仕の事今年一と政令仕の不思儀の次方と上清り
御前と立の如ぬき不具しとくわりのまゝと小性も
手と取をしと段は 小性虎女抱しと退去の
後り次々と 御簾し今生の別と思はし落涙と
河とを右橋りより退り是の何事とや御前陣よ
小原渡い水右也と酒上陣陣より存上方別業と
と衣目も度 御目えう仕の早と右入しと
退出しり

女房帯の直云沙用ひの事

紀州大洲云頼宣の或時尾張殿風とはお誠の折り
頼宣の髪と法をわたりとせり暫くは侍うと申今髪
と結袂里の事と心と女房帯のわたり御前(出尾張殿
出出は成ゆよ侍せは置の事)祝足の礼よ消けしたる
髪もく成も早と山對面(と敬養は北は事)と
ほりくは流と流しよ速山對面は成ゆ命官入り
は先程殿涙と一皆何と流しよと尋山(と帯の
ありし強く流しよ)申し念しと思はし

事なりしをいかにしてしるべしと云ふは、將軍の御遠慮の
事也。あしむの諫言をいふ所なり。家康公
御慈悲の御難有る後、やうに宣ひし也。

武田信玄死すの事

武田信玄死すの事
源氏に於ては、名物と殘念也。信玄ハ
家康より父の御遠慮の御氣法をいふなり。是
信也。然し、武田家中の信取の民百姓も、あはれ
と也。然るに、北条家が信玄死すの事、を信謙信、折良
食事と謂ひ、いふ所なり。信が死する者、居る居る後

も、是より進退の故と、同一に信玄を古今の名將也
我信玄と十四年の合戦、甲乙する事、我武名天下
も、秀諸將我と必懼む。信玄死後、誰に對し、我武
名と、いふ所なり。信一謙信より父も是、進むる事
し也。

宇治井原の事

長久の合戦、宇治井原、宇治井原、悪い處と煩居るが
今日、出陣、宇治井原、宇治井原、悪い處と煩居るが
身許、宇治井原、宇治井原、悪い處と煩居るが